



▲さっそくゲートボールに興じる会員

ゲートボール

老人クラブ会員の健康増進と憩いの場にと、昨年十一月から野口老人クラブ（鈴木健雄会長）会員の手で工事が進められていたゲートボール場が完成し、四月五日午前十一時から開場式が行われました。開場式には、同老人クラブの鈴木会長、福田野口自治会長、斎藤市長をはじめ四十人が参加、安全祈願をしたあとティーブカットを行い、市長が始球式をして開場式を終わりました。

横二十五坪の公式規格のもので、鈴木会長は「このゲートボール場の完成で会員の健康増進と親睦を図ることができ、どんどん練習して大会を開いたり、ゆくゆくは他のチームと試合をしたい」と話していました。

人事

- 自治会長
△和の代町 星野貞夫（関信吾）
△丹勢町 木島三樹男（竹田守）
- 日光市教育委員会
△委員長 野尻惣一郎（金谷太郎）
△教育長 星野聰郎（弓手弘二）
- 日光市保健委員会
△委員長 野尻惣一郎（金谷太郎）
△教育長 星野聰郎（弓手弘二）

アドニスA級

三月七日に行われた全日本軟式野球連盟栃木支部定期総会で、日光の野球チーム「アドニス」（佐藤平馬監督）がA級昇格を果たし、今月三十日と三十一日に神奈川県で行われる「第四回東日本大会」に栃木県代表として出場することになりました。

現在、同連盟栃木支部には約二千五百チームが登録されており、その中でA級チームはわずか十チームに過ぎません。日光アドニスは、昭和四十二年に結成されたクラブチームで部員は二十四人。昨年行われた高松宮杯県予選一部と第十六回関東選抜B級軟式野球大会でそれぞれ準優勝し、この実力が高く評価されてのA級入りとなったものです。

東日本大会には、一部十六県から十七チームが参加して行われますが、栃木県のチームがこの大会に参加するのは初めてです。選手活躍を期待したいと思います。

「他人の子を叱った私」

作文から③

自分の子を叱ることはできても、他人の子を叱ることは大変難しいものです。特に女親は、ものごとを客観的に見つめ、冷静に判断する雅量に欠けるために、わが子の場合でも叱るのではなく、怒るのが先に立ってしまいがちです。

また、よその子を注意しようと思っても、それを叱ることの重みと、その家族

の者がやがてその事実を知った時の感情を、はかりにかけてみては、ついつい躊躇してしまうのが私の常です。他人の子は他人の子、まあそのまま見て見ぬふりをしてしまおうと考えるのです。しかし、それは子の

よその子を叱る

所野小PTA 川田 恭子

親としては決して正しくないことは論をまかせません。

今年の夏のある日、田植えも済んだ水田は、今年の秋の収穫の豊かさを約束するかのよう青々と伸びかかっていました。その

田んぼに子供たちが大はしゃぎで入りこんでは遊んでいるのです。既に幾つかの稲株は無残に泥足で踏みだかれていました。その光景に私は、二昔以上前の私の姿を見たのでした。素足の裏にぬるっとくる感触

そして心地よい水のぬるみ、何もかも忘れてはしゃぎまわったこと。そして、その後のお百姓さんの怒声。

私は、足を止めました。そして一言声をかけました。

「みんな、やめなさい」

子供たちは、ちらつと私を見ました。その目には折角の楽しみを阻止された不満がありありと見え、抗議の視線さえも感じられます。

私は、この子たちの遊戯の重みと、お百姓さんの悲しみを、この子たちの心がどう天びんにかけるか、そして、どちらを選ぶかを興味深く見つめました。少しずつ、おだやかに、子供たちの遊戯の非を指摘しながら……。

叱る。それは、心に余裕と冷静さが無いとできないことです。感情的になって叱るのは決して効果のないものであることを知りました。

みんなのひろば